

第1章 調査の概要

第1節 文化財総合的把握モデル事業

1. 事業の経過・体制

本報告書は、高砂市が文化庁の「文化財総合的把握モデル事業」のモデル地区として採択を受け、実施した文化財調査の成果報告である。

文化財は、地域の歴史や文化を物語る貴重な資源であり、地域住民及び国民共有の財産である。文化財は、地域の個性形成の核となるものであり、文化財を活かしたまちづくりは、地域の魅力を高め、活力の向上に寄与するものと考えられる。

このような視点を踏まえ、「文化審議会文化財分科会企画調査報告書」（平成19年10月）で提言されたのが、「歴史文化基本構想」である。これは、各市町村が文化財を核として地域全体を歴史・文化の観点からとらえ、各種施策を統合して一貫性のある取り組みを行うために策定するものである。

こうした取り組みを支援する国の新たな制度として、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通

称：歴史まちづくり法）」が施行されている（平成20年11月）。

文化庁が、域内の文化財を総合的に把握するガイドラインの策定に向けて、「文化財総合的把握モデル事業」を、平成20～22年度に実施した。全国20地区の市町村をモデル地区として採択し、事業を委託したものである。

高砂市では、モデル事業の採択を受け、計画にもとづき実施した。歴史文化基本構想策定の審議を行う機関として、歴史文化基本構想等策定委員会を設置し、文化財調査を専門的に調査・検討するため、文化財調査専門部会を設置した。事務局は、高砂市教育委員会 生涯学習課文化財係が担当し、(株)マヌ都市建築研究所が協力した(図1-2、表1-1)。

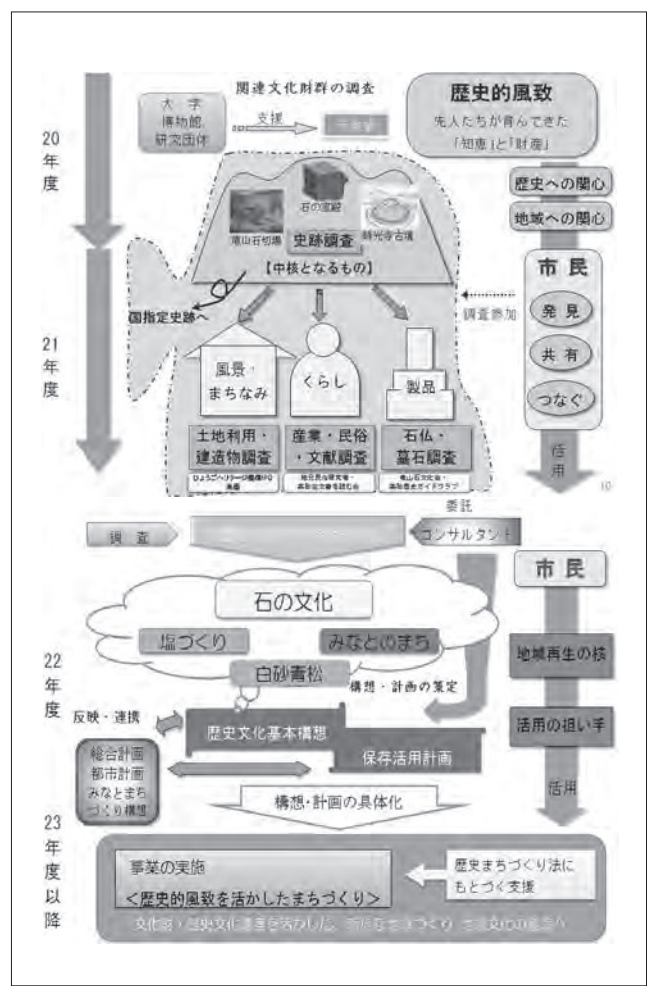


図1-1 文化財総合的把握モデル事業フロー図

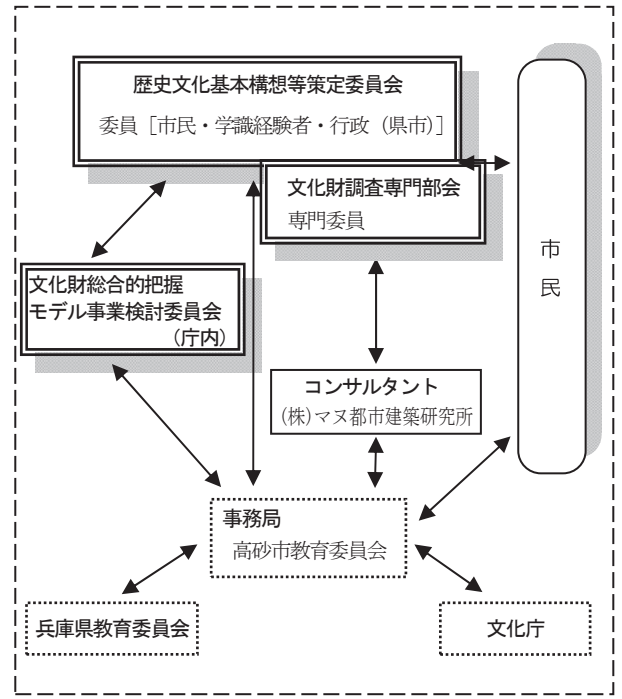


図1-2 文化財総合的把握モデル事業組織図

分野	氏名	所属
史跡	中村 弘	兵庫県立考古博物館主査
	魚津 知克	大手前大学史学研究所研究員
景観	福井 亘	京都府立大学大学院講師
建造物・まちなみ	尾瀬 耕司	ひょうごレテジ 機構H ² O 東播
	吉田 文男	
墓石	渡辺 昇	兵庫県立考古博物館課長補佐
	高原 孝明	竜山石文化会代表
	唐津 哲男	高砂歴史ガイドクラブ会長
石造物	藤原 良夫	加古川市文化財審議会委員
	曾根 文省	曾根天満宮宮司
民俗	横山奈央子	あかりの鹿児資料館学芸員
	先山 徹	兵庫県立人と自然の博物館主任研究員
文献	田寺 典似	元高砂市市史編さん専門員
	歌井 昭夫	高砂古文書の会代表

表1-1 文化財調査専門部会の構成

文化財調査を中心とした経過は下記のとおりである。

平成20年8月	モデル地区として採択
12月	文化庁と委託契約の締結
21年1月	各文化財調査の開始 歴史文化基本構想等策定委員会の設置 (以降、9回会議を開催) 文化財調査専門部会を設置 (以降、9回会議を開催)
21年度	各文化財調査の継続
22年2月	文化財調査成果報告会 (高砂まちあるき in 曾根を併催)
5月	文化財調査報告書作成に関する会議 (以降、10月・23年1月も実施)
23年2月	歴史文化基本構想策定市民フォーラム
3月	文化財調査報告書の刊行

第2節 文化財調査

高砂市の文化財を総合的に把握するために、文化財調査を実施した。

限られた期間内で、高砂市のすべての文化財を調査することは不可能に近い。これまで行われた各種文化財調査の成果を最大限活かすこととした(表1-2)。そのうえで、未調査分野・対象・種別のうち、事業の趣旨や歴史文化基本構想を策定するうえで必要と考えられる調査分野・対象を絞り込むこととした(表1-3)。以下に概要を記す。

1. 市民参加の調査体制

分野ごとに、市内で活動を展開している市民団体等、小中学生、市内で実績のある各分野の専門研究者等、コンサルタント業者等と、適切な調査主体を選定するが、地元住民と研究者による合同調査の形を基本とする。これは、調査が独善的になることを避けるとともに、地域に密着した住民が、調査をとおして学習をし、将来的に歴史文化遺産の発見、保護、活用に関わる契機になることを期待するためである。

2. 専門機関の支援体制

大学等の調査機関としては、市内および周辺地域で実績のある兵庫県立考古博物館、兵庫県立人と自然の博物館のほか、大手前大学の支援を得る。

文化財類型	対象文化財	調査機関	調査年度	調査内容・成果
有形文化財 (建造物)	社寺	兵庫県教育委員会	昭和53・54年度	兵庫県内の神社・寺院建築を調査。市内社寺の現状を調査。
	民家	国立明石工業高等専門学校	平成10年度	市内5件の民家を対象とした建造物調査を実施し報告書を刊行。代表的な近世民家のみを調査。
	旧入江家住宅	旧入江家住宅総合調査会	平成14～18年度	近世庄屋層民家である県指定文化財旧入江家住宅に関する総合調査を実施。建造物調査を実施し報告書
有形文化財 (石造物)	石仏	高砂市教育委員会	平成9・10年度	市内の中世・近世石仏の分布調査を実施し、中世石仏の紹介冊子を刊行。地藏信仰についても聞き取り調査を実施。
	道標	高砂市教育委員会	平成9・10年度	市内に残る道標すべてを調査し、紹介冊子を刊行。
民俗文化財 (有形・無形)	民謡・民俗・方言	兵庫県教育委員会	昭和56～58年度	兵庫県内の民謡・民俗全般・方言等について調査。報告書・地図を刊行。
	石工技術と用具	高砂市教育委員会	平成12～16年度	竜山採石遺跡詳細分布調査で、石工技術について古老石工の聞き取り調査等の民俗調査を実施。伝世の石工用具の調査も実施。
	高砂町の民俗	神戸女子大学	平成16年度	高砂町地区の民俗について聞き取り調査を実施し、報告書を刊行。
	稚児の祭礼	兵庫県教育委員会	平成17年度	中世から伝承された稚児の祭礼「一ツ物」の調査。高砂神社・荒井神社・曾根天満宮の祭礼を調査し、報告書を刊行。
遺跡 (史跡)	日笠山貝塚	高砂市教育委員会	昭和37～41年度	縄文時代の貝塚。3次にわたる発掘調査で、土器・石器・獣骨・魚骨・人骨が出土した。
	阿弥陀古墳群	高砂市教育委員会	昭和37年度	古墳時代後期の阿弥陀12・13号墳を発掘調査。石棺身や土器などが出土した。
	埋蔵文化財包蔵地	高砂市教育委員会	平成元～3年度	市内遺跡詳細分布調査を実施し、遺跡地図を刊行。
	竜山石切場	兵庫県・高砂市教育委員会	平成4・12～16年度	竜山石切場の採石丁場跡の詳細分布調査等を実施。各分野の調査で報告書を刊行。
	時光寺古墳	高砂市教育委員会	平成16～19年度	古墳時代中期の円墳を発掘調査。墳頂部から長持形石棺や埴輪などが出土した。
	石の宝殿	大手前大学・日本探査学会・高砂市教育委員会	平成18・19・21年度	県指定史跡石の宝殿を調査。3次元計測・レーダー探査を実施し、報告書を刊行。
総合	市史編さん事業	高砂市	平成11年度～	古文書を中心に各種文化財などを総合調査し、順次刊行中。

表1-2 過去の文化財調査の概要

分 野	調査対象	調査体制
	ねらい	
1 史跡調査	石の文化に関する史跡（竜山石切場） 3次元地形計測をもとに、石切場景観の変化や保存の実態を、調査する。	兵庫県立考古博物館・大手前大学史学研究所・京都府立大学
2 建造物・まちなみ調査	歴史的建造物（民家・社寺）、まちなみ 近世集落を中心に残る歴史的建造物を調査し、まちなみの特性を抽出する。竜山石使用状況も調査する。	ひょうごヘリテージ機構H ² O東播
3 石造物調査	中世から近世の石仏・石造物 市内石造物を一覧化し、市域各地の身近に残る、石造文化の分布状況を明らかにする。	市史編さん特別執筆者
4 墓石調査	近世・近代の墓石（寺院・共同墓地全域） 竜山石とその他石材の生産・流通・消費の歴史をさぐる。くらしの中の竜山石利用の実態を明らかにする。	近世墓研究会・竜山石文化会・高砂歴史が'ト'クラブ
5 民俗調査	祭礼・年中行事・習慣 現代のくらしに息づく伝統文化の現状を明らかにし、地域の日常や特徴を抽出する。	民俗研究者
6 文献調査	古文書・文書 近代竜山石の生産・流通史を記す文書の整理・解説を行う。記録を検証し、現代までのあゆみをとらえる。	市史編さん課・古文書を読む会
7 岩石調査	竜山石の分析（成立・特徴・耐用性など） 竜山石の特徴を明らかにし、他の石材の比較や、評価を見直し、今後の活用の検討材料とする。	兵庫県立人と自然の博物館

表 1-3 文化財調査の概要

3. 調査の方針

市内の当該歴史文化遺産及び現状を把握するために悉皆調査を実施する。名称・所在・現状写真を基本にデータベース化し、今後データ活用できるよう、汎用性と利便性を重視した資料収集を心がける。個別各分野の調査団体ごとに、調査計画・方法を協議する場を設定する。調査の進捗状況や結果については、歴史文化基本構想等策定委員会に協議・報告し、総合的な方針のもとに、調査を実施する。

4. 体制と経過

今後の文化財保存活用において必要であると考えられる調査項目について、調査団体と協議を重ね、調査内容・計画・方法を絞り込み、歴史文化基本構想等策定委員会・文化財調査専門部会と審議を重ねながら、文化財調査を実施した。

第3節 通史と文化財

1. 通史

①旧石器・縄文・弥生時代（原始）

人々が、高砂市で生活を始めたのは、旧石器時代に始まる。市内では、日笠山・竜山などの山頂や鴻ノ池池畔で石器が採集されている。当時、瀬戸内海は現在のような海で

はなく、小丘陵や草原が広がり、あちこちに川や沼地が存在する自然環境であったと考えられる。広い範囲にわたって、猟人が獣を追っていたことが想像される。

縄文海進（約6000年前）は、地球が温暖な時期で、海面が今より3～5メートル高かったといわれている。現在の市域の約2/3が海域であり、海岸線は現在よりも約3km北上していた。岬状となっていた日笠山の山麓には日笠山貝塚が形成され、縄文時代の遺物や食糧残滓、人骨が出土している。狩猟採集のため移動しながら生活していたと考えられる。

縄文時代晩期以降の沖積地にある塩田遺跡は、海進後に



図 1-3 日笠山貝塚



図1-4 石の宝殿と竜山石切場



図1-5 曾根天満宮一ツ物

海岸線が南下した時期の遺跡で、生活基盤が平地へ移動しはじめたことを示している。

弥生時代になると、神爪や米田などの地に集落が形成された。河川がもたらした自然堤防上などの微高地周辺で、農耕が本格的に営まれはじめたと考えられる。地形の安定化とともに、住環境が確立され、生活基盤が安定化していった時代である。

高砂町東宮町では、弥生時代から古墳時代にかけての土器や蛸壺が出土している。海生生物の捕獲や猟が沿岸部で行われていたものと推測できる。

②古墳・奈良・平安時代（原始～古代）

古墳時代には、前期の経塚山古墳や天神山古墳、中期の時光寺古墳、後期の阿弥陀・竜山・北脇古墳群などの古墳が築かれ、300年以上にわたって、有力者の墓が築かれた時代である。竜山では、採石が行われ、古墳時代前期の古墳石室材、中期の長持形石棺39基、舟形石棺2基、後期の家形石棺519基が生産された。石棺は、大王墓や地域首長墓に用いられ、陸路や航路をつかって、西日本各地に流通した。石棺は日本全国で1,564基確認されているが、竜山石製は560基で全体の35%を占める。『播磨国風土記』に記述のある石の宝殿は、竜山石切場の山中に現存し、用途不明の石造物であるが、石棺流通をになった当時の中央集権国家との関連が注目される。

飛鳥・奈良時代には、恭仁京や平城宮、播磨国分寺の礎石などに竜山石が使用されている。この頃、西日本の幹線道路である古代山陽道が整備され、市域の北部を東西に貫通している。

平安時代には、阿弥陀町魚橋で生産された瓦が平安京の寺院などに用いられた。陸上・海上の交通基盤の整備とともに、物資の交易がさかんとなった時代背景がある。地場産業としての生産活動が盛んとなり、製品が流通し、人や文化の交流が広まった。

一方、入り湾状に広がる日笠ノ浦の景色が『万葉集』に歌われるなど、高砂、印南野の風光明媚な景観がめでられた。

③鎌倉・室町・戦国時代（中世）

謡曲「高砂」は、室町時代に能を完成させた世阿弥の作といわれ、高砂の浦を舞台にした夫婦愛、長寿の理想をあらわしている。歌詞にある、「高砂やこの浦舟に帆を上げて...かかる世に住める民とて豊かなる君の恵みぞありがたき」は、当時の景観を背景に情感を謳いあげたものといえる。

中世にかけて、御厨庄・伊保庄といった荘園が成立していったが、地勢の安定・生活圏の確立が時代背景にあると考えられる。曾根にあった時光寺が北原の地に創建され、その地が阿弥陀と改称された。仏教が庶民に広まっていった時期で、この頃つくられた五輪塔や石仏などの石造物が現在も残されている。生石神社の信仰が文献で確認でき、曾根天満宮の一ツ物祭礼の催行もこの頃が起源と考えられている。現在の各神社の氏子域と、荘園範囲が重なっているのは、この頃に生活圏が設定され、地域社会のあゆみとともに確立化していったことに由来する。

古式入浜式塩田が、曾根町塩田や荒井町小松原の内陸部に築かれていた。

戦国時代になると、高砂城・小松原城などの構居（城）が平地や山上に築かれた。のちに、城跡付近に、近世集落が市内各所に形成されるようになった。

④江戸時代（近世）

江戸時代になると、地方支配構造に大きな変化がもたらされた。姫路城主となった池田輝政は、高砂の地を重要拠点としてとらえ、慶長17年(1612)に加古川西岸の河口に高砂城を築き、町場を周囲に配置した。一国一城令によって、高砂城は廃城になったが、元和年間に、姫路城主の本多忠政は、高砂城跡に高砂神社をもとし、碁盤目状の町割り



図 1-6 塩田の風景



図 1-7 みなとのまち

周囲をめぐる堀川を開削し港町を築いた。高砂の町は、加古川と瀬戸内海を結ぶ舟運の拠点となり、物資集散の地として発展した。木造船舶を修理製造する舟大工や漁業を営む漁師たちも数多く生業にいそしんでいた。

今市は、加古川旧本流であった洗川と法華山谷川が合流する地点にあり、幕府代官領を経て18世紀中期以降、一橋家支配地となり、物資集積の港町として発展した。

荒井では、沿岸の遠浅の浜を利用して入浜式塩田の技術が確立し、荒井塩田での生産にとどまらず、塩田開発のため梅井（荒井新村のち魚崎新村）に村人が移住した。技術の伝播は、赤穂塩田や徳島撫養塩田に広がった。

北浜や曾根の沿岸にも近世初頭から入浜式塩田が盛んに営まれた。曾根は、のちに幕府領と福本藩（現神河町）の入組支配と複雑な支配体制となった地である。製塩業の基幹産業だけでなく、海産物の行商も営まれた。

竜山石の生産は、建物の基礎に用いる建築材を主要製品として、生産活動が隆盛した。地元だけでなく、上行きと呼ばれる大坂や兵庫への流通経路が、法華山谷川と瀬戸内海を結ぶ海上ルート上に確立された。

阿弥陀や米田など、肥沃な平野部では、稲作のほか、播磨地方の特産といえる木綿の栽培が行われていた。近世後期には、木綿・石・塩を対象として、姫路藩による専売制が敷かれた。多岐にわたる地域産業が、経済文化の発展に結びつき、集落の形成・確立が進んだ。

⑤明治・大正・昭和時代戦前（近代）

近世に確立された、石や塩の伝統産業は、近代以降も継続発展した。住宅供給が増大した時代背景のもと、建築材としての竜山石の生産は拡大し、神戸・大阪・名古屋に支店を持つ問屋組織が存在した。食生活に欠かせない塩は、曾根や北浜で生産され、過剰生産による価格低下で、組合による生産調整も行われた。

支配体制の変革のあおりをうけ、加古川舟運は衰退し、港の機能に変容した。年貢米など藩の物資運搬をになった

港町は、近代産業の生産物資をになうこととなった。

明治21年に山陽鉄道（現JR山陽本線）が開通するなど、鉄道による流通経路が確立していった。高砂や荒井の沿岸部に近代工場が築かれた。明治34年に三菱製紙工場にはじまる、近代産業の興隆によってもたらされた変化は大きかった。大正4年に播州鉄道（旧国鉄高砂線）などが開通したのも、工場地への運搬ルート確保のためであった。市街地には、劇場などの娯楽施設や、金融機関・行政・福利施設などが設置された。農業から商工業へ転換を余儀なくされた人々がいる一方で、社宅造営など、工場勤務者の流入人口も増加した。

⑥昭和戦後時代

昭和29年に高砂市が誕生した。昭和32年播磨臨海工業地帯に指定され、36年から臨海部の埋め立てが始まり、39年には工業整備特別区域に指定された。海水浴場は昭和35年をもって閉鎖され、埋立地には企業が誘致された。大阪砲兵工廠の跡地は、埋立地とあわせて工場地帯となった。

一方で、工場から排出される廃棄物が大気汚染や沿岸部の水質悪化を生み出し、工場に近い旧市街地の住環境に深刻な影響を与えるようになった。また、昭和30年代からの臨海部の埋め立てにより、海は市民から遠い存在になったことから、海に親しめる空間の回復に向けた市民からの強い要望を受けた。

昭和46年には、化学的な製塩技術の導入により塩田が全国一斉に廃止され、約400年にわたる製塩業は終息した。

竜山石は、高度経済成長期の開発等で、建築材の需要が大量発生し、発破作業で山容を崩すほどの史上最大の生産期となった。昭和50年代以降は、外国産石材や他の資材の価格競争の影響で、生産は低下するに至っている。

中世を始源とする祭礼は、各神社で伝統的に受け継がれ、現在も盛んにとり行われている。

経済・社会構造の変化は、豊かな環境づくりに結びつき、住環境や交通網の整備、商工業の発展など、都市基盤が安

定してきた。農地の減少とともに、居住域が拡大し、ライ
フラインの確立が進んでいる。

2. 文化財の一覧

現在の指定・登録の文化財は、表1-4のとおりである。

国指定文化財

No.	種別	名 称	管理者	所在地
1	絵画	絹本着色五仏尊像	十輪寺	高砂町横町

国登録文化財

No.	種別	名 称	管理者	所在地
1	建造物	旧朝日町浄水場配水塔	高砂市	高砂町朝日町
2		土田家住宅魚橋郵便局舎・離れ・門及び塀	個人	阿弥陀町魚橋

県指定文化財

No.	種別	名 称	管理者	所在地
1	建造物	石造五輪塔(阿弥陀共同墓地内)	阿弥陀町	阿弥陀町阿弥陀
2		十輪寺本堂	十輪寺	高砂町横町
3		石造宝篋印塔	時光寺	時光寺町
4		旧入江家住宅	高砂市	曾根町
5	絵画	絹本着色阿弥陀来迎図	十輪寺	高砂町横町
6		真浄寺障壁画	真浄寺	伊保
7	彫刻	木造阿弥陀如来立像	利生寺	荒井町御旅
8	考古	天磐舟(家形石棺蓋石)	高砂市	曾根町
9	史跡	石の宝殿	生石神社	阿弥陀町生石
10	民俗	曾根天満宮の一寸物	曾根天満宮一寸物神事保存会	曾根町

市指定文化財

No.	種別	名 称	管理者	所在地
1	建造物	岸本家織部灯籠	高砂市	曾根町
2		入江家織部灯籠	高砂市	曾根町
3		延命寺織部灯籠	延命寺	高砂町横町
4		黒岩十三仏(磨崖仏)	住吉神社	曾根町
5		石造十三層塔(大福寺境内)	大福寺	荒井町小松原
6		石造九層塔(時光寺境内)	時光寺	時光寺町
7		石造五輪塔(大日寺境内)	大日寺	阿弥陀町
8		庫裏・大玄関・小玄関	十輪寺	高砂町横町
9		石灯籠	米田天神社	米田町米田
10		美雄弥神社	荒井神社	荒井町千鳥
11		十輪寺山門	十輪寺	高砂町横町
12		曾根天満宮石橋	曾根天満宮	曾根町
13		時光寺山門	時光寺	時光寺町
14	絵画	絵馬「武将騎馬図」(森周峯筆)	高砂神社	高砂町東宮町
15		絵馬「牽牛図」(曾我蕭白筆)	曾根天満宮	曾根町
16		絵馬「放牛図」(橋本閑雪筆)	曾根天満宮	曾根町
17		絹本着色阿弥陀来迎図	真浄寺	伊保
18		寒山拾得・仙人之図(曾我蕭白筆)	利生寺	荒井町御旅
19		絵馬「神馬図」(曾我蕭白筆)	加茂神社	竜山
20		絹本着色不動明王二童子像	十輪寺	高砂町横町
21		絵馬「三十六歌仙」	米田天神社	米田町米田
22		絹本着色観経変相図	時光寺	時光寺町
23		「楼閣山水図」襖押絵貼図、 「人物図」襖押絵貼図(曾我蕭白筆)	時光寺	時光寺町
24		絵馬「高砂神社神事の図」	高砂神社	高砂町東宮町
25		絵馬「祭礼の図」	高砂神社	高砂町東宮町
26		曾根天満宮幣殿天井絵	曾根天満宮	曾根町
27		彫刻	木造阿弥陀如来立像	観音寺
28	工芸品	石仏(大日寺境内)	大日寺	阿弥陀町阿弥陀
29		罌口	米田神宮寺	米田町米田
30	書跡	貝多羅葉	善立寺	高砂町横町
31		鐵眼版・大蔵経	真浄寺	伊保
32		貝多羅葉	真浄寺	伊保
33	考古	聖徳太子伝記	真浄寺	伊保
34		三角縁五神四獣鏡	蓮教寺	北浜町牛谷
35		竜山5号墳出土品	高砂市	曾根町
36	史跡	塩田遺跡出土墨書土器他	高砂市	曾根町
37		藤の井	西浜自治会	北浜町西浜
38		観涛処	加茂神社	竜山
39	歴史	算額	生石神社	阿弥陀町生石
40		別所重棟制札	曾根天満宮	曾根町
41	民俗	荒井神社仁輪加太鼓	仁輪加保存会	荒井町千鳥

表1-4 指定・登録文化財一覧表(平成23年3月現在)